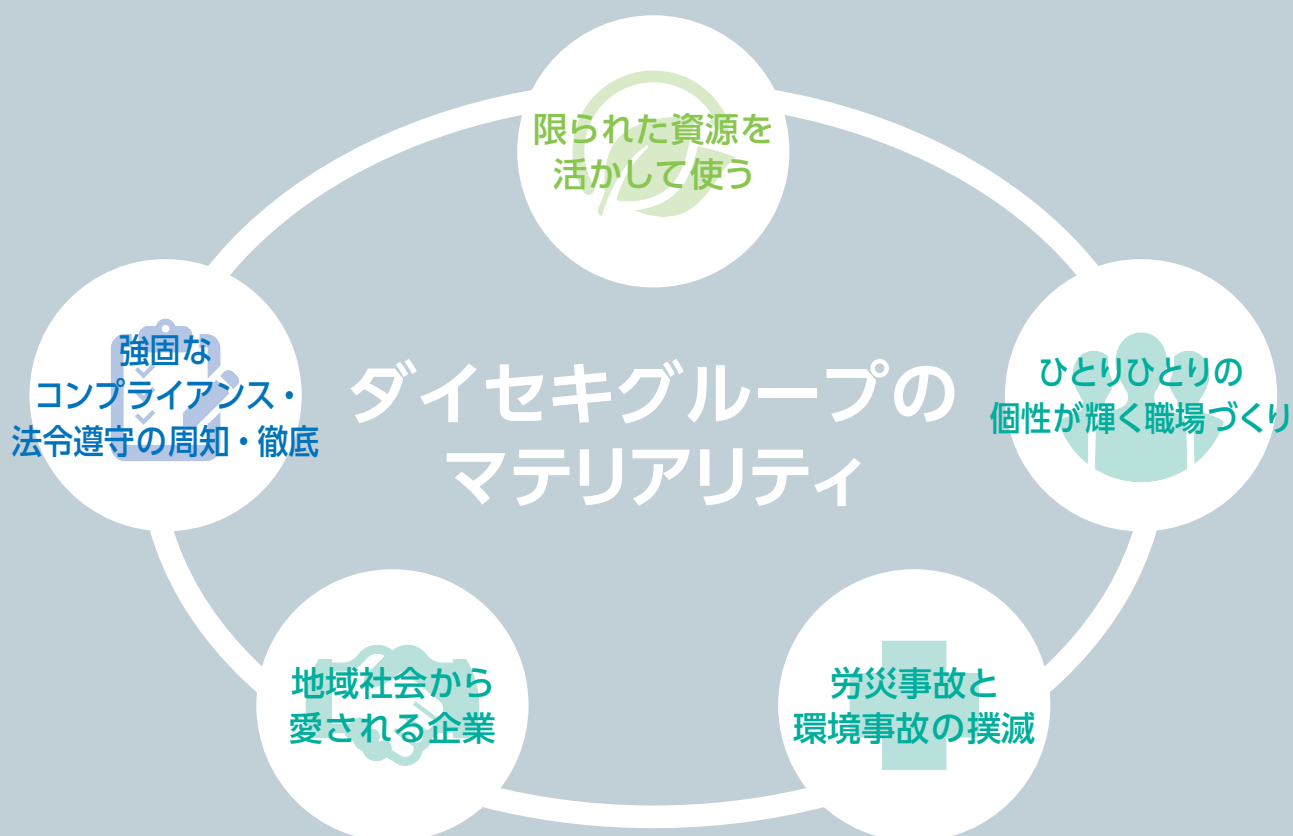
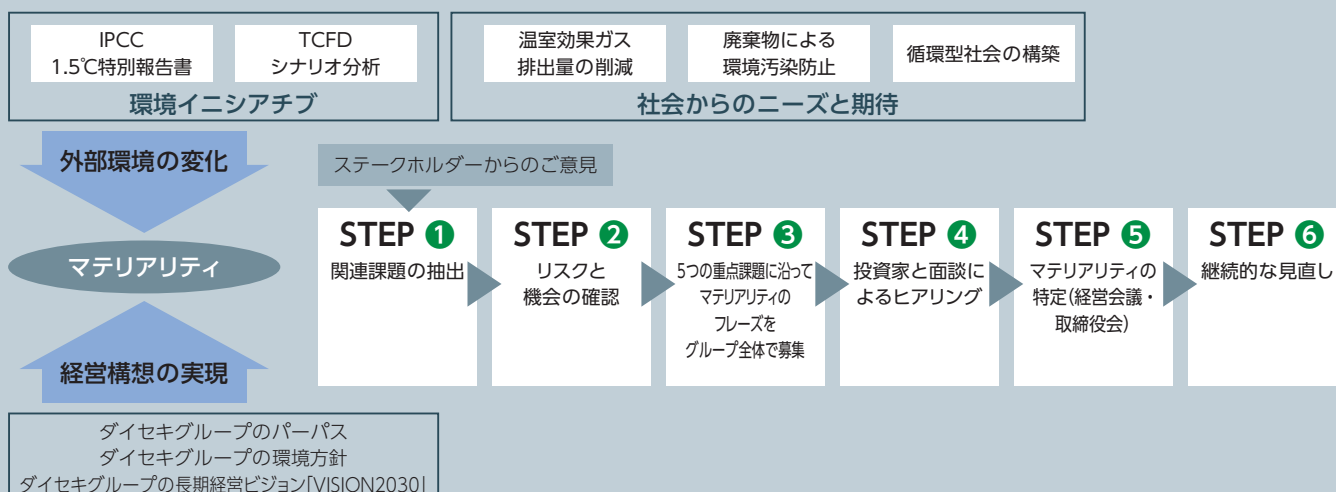


ダイセキグループの重点課題と マテリアリティ特定プロセス

ダイセキグループでは環境を通じ社会に貢献する環境創造企業として持続的に成長していくために、5つのマテリアリティを特定して取り組みを推進しています。ESGの観点と連動を図りながら中長期的な視点で企業価値向上を促進していきます。



● マテリアリティ特定プロセス



● 重要課題の重要性評価

高い	ステークホルダーに対する重要性		<ul style="list-style-type: none"> カーボン・ニュートラル サーキュラーエコノミー 環境保全 お客様との信頼関係 健康経営 社員のエンゲージメント向上 コンプライアンス遵守 コーポレート・ガバナンス コア事業シェアアップ 新規事業の開拓
			<ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ ワークライフバランス 人材育成
			<ul style="list-style-type: none"> 地域との信頼関係 自治体や大学との連携 地域への貢献
低い		低い	高い

当社の事業活動における重要性

● 考慮した主な意見



● 投資家

- 自社の温室効果ガス排出量削減
- 水循環への貢献
- 有害廃棄物排出量の情報開示
- 社員教育、労働マネジメントの強化
- 人権保護
- 安全マネジメントシステムの導入
- 業績連動報酬制度の導入
- グループ会社管理の強化
- [VISION2030]の目標管理
- コンプライアンス遵守

● ダイセキグループの役員及び社員

- サークュラーエコノミー社会の実現
- 気候変動対策の推進
- ひとりひとりの個性と能力の発揮
- 安全を最優先し安心して働ける職場
- 地域社会との共存・共栄
- コンプライアンス遵守による信頼獲得

● 各課題とSDGsとの関連、取り組み、実績評価

ESGマテリアリティ		2022年度の取り組み	ステークホルダーの関心度	ダイセキグループへの影響度	目指す姿	関連ページ
マテリアリティ	重点項目					
限られた資源を活かして使う	<ul style="list-style-type: none"> ● サークュラーエコノミー ● カーボン・ニュートラル ● 環境保全 ● 環境創造企業としてのお客様との信頼関係強化 	温室効果ガス排出量削減目標のSBT認定を取得し、削減に取り組みました。CDPのBランクを取得しました。	極めて高い	極めて高い	      	P27 ~36
ひとりひとりの個性が輝く職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康経営(社員、家族、サプライチェーン) ● ダイバーシティ、インクルージョン ● ワークライフバランス ● 人材育成(プロとして社会やお客様からの信頼を獲得し、家族に誇れる仕事ができる社員) ● 家族に誇れる職場・会社(やりがいや働きがいのある安全で不正のない職場を社員と会社が創る) 	人材育成方針と社内環境整備方針を策定し、人的資本経営を推進しました。	極めて高い	非常に高い	   	P37 ~40
労災事故と環境事故の撲滅	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全を全てに優先させる理念 ● プロとして安全に取り組む人づくり ● 危険予知訓練、リスクアセスメント ● 必要な設備の更新と増強 	真の事故原因の究明や、お客様先の安全パトロール等、事故防止活動を徹底しました。	非常に高い	極めて高い	 	P41 ~42
地域社会から愛される企業	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の住民との交流、信頼関係の構築 ● 地域の自治体や大学との連携 ● 地域に根差し、環境を通じて地域に貢献できる企業 	自治体のイベントへの参加、大学と連携した実学研修を実施して、自治体や大学との連携を深めました。	高い	高い	 	P43 ~44
強固なコンプライアンス・法令遵守の周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃掃法等の関係法令の遵守 ● コンプライアンス勉強会による社員教育 ● コーポレート・ガバナンスの強化 	全社員が毎月出席するコンプライアンス勉強会を通じて、法令遵守の意識と知識の向上を図りました。	非常に高い	極めて高い	 	P45 ~50